

## 実効あるコミュニティバスの運行を求めます

**議員** バスの運行は行政が責任を持ち主体とならなければ進みません。今の行政は「市民との協働」の名のもと地域に丸投げしています。行政が自ら市民の声を聴き地域の実態調査をすること、またネックである指針の見直しを求めます。

### 交通



長谷川美樹議員  
(日本共産党)

**市** 持続的な運行のため3者協働で取り組みます。

行政が主体になるのではなく、地域、事業者、行政の3者協働で取り組みます。実態調査は、導入を検討する地域ごとに実施すべきものと考えています。今は指針に基づいて実行する段階にあり、見直しは考えていません。(企画財政部長)

**他の質問** 4年間の行革の評価、正社員雇用の促進、地デジ難民問題解消

## いじめ対策防止機関の設置を

### 教育

**議員** いじめは、単に教育関係組織だけの問題ではなく、市全体の問題としてとらえ、第三者も交えた、いじめ対策防止機関を設けるべきと考えます。



佐貴尚子議員  
(無党派)

**市** ケースに応じた検討会で対応します。

さまざまなケースのいじめ事案に応じた検討会の開催が最も効果的と考え、当面はスクールカウンセラーなどの専門家や家庭児童相談室、川西こども家庭センターや三田警察署、民生委員児童委員などを交えて対応します。現行は青少年育成センターに専門職員を配置していますが、さらに市教育委員会事務局内部に専門的な知識を有する職員の配置を検討します。(教育長)

**他の質問** なし

**説明** 川西こども家庭センター：三田市を管轄する児童相談所の一つ。「児童虐待防止24時間ホットライン」の開設をはじめ、子ども本人や、家庭など子どもを取り巻く環境のさまざまな問題について相談援助活動を展開しています。

## 駅前活性化、市民が音楽を楽しめるまちに

### 文化

**議員** 駅を降りるとそこに音楽が流れている…三田駅のペDESTリアンデッキでの『夕暮れ駅前コンサート』開催の提案を昨年させていただいたが、その後の見直しは？



肥後淳三議員  
(新政みらい)

**市** 「ペデコン・サンダ」を開催

夕暮れ駅前コンサートは、駅前を活性化し、まちの

賑わいをも高め、新たな市民文化を創出する場の拡大につながると考えています。(市長) 最初の取組みとして、三田あおぞらコンサート『ペデコン・サンダ』を開催します。(9月16日に開催済) 今後も多くの市民が交流する機会につながるよう取組みを進めてまいります。(まちづくり部長)

**他の質問** 市幹部職員の職務目標公表、防災井戸設置、電力自由化による大口需給契約、サイクリングマップの作成

## 保育所の入所決定時期の見直しを

### 子育て

**議員** 2次募集の入所決定時期が現状の3月上旬のままでは、保護者が入所未確定の状態での職場復帰や、職探しを行うこととなります。「子育てするならゼツタイ三田」の名のもと2月中旬に2次決定できるスケジュールにすべきと考えます。



美藤和広議員  
(志民の会)

**市** 申込時期の前倒しを検討します。

入所決定時期を大幅に早めるのは困難ですが、保護者ができるだけ早く結果を知ること、職場復帰などの対応がし易いと考えられますので、入所申込時期の前倒しについて検討します。(健康福祉部長)

**他の質問** 第二テクノパークの状況と課題、将来に向けた介護システム

## キッピーモールの賃料の見直しを

### 財政

**議員** 「キッピーモール」は、市が1～5階までを年間6,000万円で三田地域振興株式会社に貸し、逆に6階を1億300万円で借りています。1：7の格差の見直しをすべきと考えます。



中田初美議員  
(日本共産党)

**市** 貸付料と賃借料は根本的に異なります。

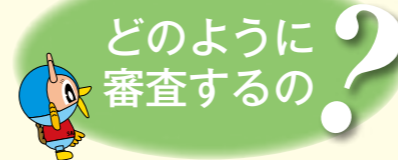
貸付料と賃借料は根本的に異なり、同一に取り扱われるものではありません。また、既に議会でも論議され決定されたものです。(市長)

1～5階の貸付料はビルの建築価格を耐用年数で除して算定した価格です。6階の賃借料はテナント契約料で近隣の物件と差異はありません。(都市整備部長)

**他の質問** いじめ問題、高齢者バス・鉄道運賃助成制度の充実

**説明** 三田地域振興株式会社：平成13年に設立された第3セクターで、キッピーモールの管理運営すると共に、三田駅前第1・第2駐車場の経営を行なっています。

# 平成23年度決算 市議会が審査・認定



市の決算は、市長から市議会の審査にゆだねられます。市議会では、議長と監査委員を除く全議員で決算特別委員会を組織し市の予算が適正に使われたかどうかを詳細に審査します。23年度決算については、9月3日～5日に企画総務・福祉文教・まちづくりの各分科会で個別審査を、6日の全体会で総括質疑を、7日に決算特別委員会で決決して行いました。最終的に決算を認める(認定)か、認めないか(不認定)は議会の議決で決定します。(10ページに結果を掲載)

## 分科会審査 3つの常任委員会の所管に準じる各分科会ごとに、歳入・歳出の全決算項目について審査

### 企画総務分科会

- 市税の不納欠損額が年々増加している。これまでのノウハウを十分に引継ぎ、収納率の向上に取り組むべき。
- 北摂三田ニュータウン施設整備管理基金は毎年取り崩しを行い植栽管理や道路修繕事業に支出しているが、今後維持管理費の増が懸念されるため運用は計画的に行うべき。
- 自主的な防災マップづくりを希望している地域に対しては積極的に支援を行い、作成済の地域のマップは早急にホームページ上で公開すべき。

ほか

### 福祉文教分科会

- 児童虐待への対策については、事が起こってからでは遅いので、危機感を持って対応すべき。
- 近年増加しているがんについては早期発見が最も重要なので、誰もががん検診受診の機会を逃すことがないように、より一層の周知を図り、受診率の向上に努めるべき。
- 学校のIT化については、近年タブレット型の端末を導入している事例も多いことから、試行的にでも導入し教育現場での活用を検討すべき。

ほか

### まちづくり分科会

- 市民センターなどの公共施設で、さまざまな設備、機器等の老朽化がすすんでいる。利用者に迷惑がかからぬよう修繕・入替を計画的にすすめるべき。
- 山間部には市道認定されていない生活道路が複数存在する。公平な行政をめざすためにも、地域担当制等を活用しながら、積極的に地域の要望等に耳を傾け適切な道路整備を行うべき。
- 「南公園里山保全・育成プロジェクト事業費」は、具体的な計画案を大々的に広報し、都市間競争に打ち勝てるメイン事業として取り組むべき。

ほか

## 全体会(総括質疑) 委員が属する8つの会派(無党派含む)毎に、全ての決算に関して質疑を行い答弁を求める

- 都市部に比べて、市内のバス運賃は高額であることから、より利用しやすい運賃でバス運行ができるような方策を検討し、地域公共交通会議を三田でも立ち上げ市内の交通利便性の向上と確保を図るべき。
- 地産地消プロジェクト推進事業の成果の検証を行うとともに、三田の特性を活かした独自性のある取組みに努めるべき。
- 学校給食に使う三田米については、できるだけ市内での精米が可能な方法を検討すべき。
- 有害鳥獣の被害は、農家にとって死活問題とも言える。現在臨時的に各農会や市職員で対応している駆除活動について、本来の体制に戻せるよう課題の解決に早急に取り組むべき。
- 小中学校の立替施行償還金について市財政の負担が軽減されるよう、適時償還計画の見直しに努めるべき。
- いじめ問題に対しては、子ども達が主体となって向き合えるようなくみと環境づくりに一層努めるべき。

ほか

### × 反対討論

- 県の行革・所得制限の見直しによる、高齢者や障がい者、一人親家庭への負担増や福祉サービスの低下
- 三田地域振興株式会社からキッピーモール6階フロアの高額での借り上げ
- 人権施策の特定地域への偏り など

### ○ 賛成討論

- 行財政改革による財政再建
- 三田地域振興株式会社の経営改善
- 子育て支援医療費助成の拡大をはじめとする、子育て支援の充実
- キッピーモールの借り上げは計画どおりの適切な執行
- 特定地域での人権施策は必要 など

## 委員会での表決

平成23年度決算認定案10件は、決算特別委員会で審査し、議員からの反対意見、賛成意見が表明された後に、表決をしました。結果は、一般会計決算の1件が賛成多数で、その他の9件については全会一致で認定されました。

## 9月議会で採決